

最大時 32万人が避難

避難所は不安を抱えた多くの人であふれかえった。

発災当初、事前の指定の有無によらず多数の避難所が開設されました。

沿岸部では、地震や津波により指定避難所が使用できず、ホテル、神社、お寺、幼稚園、民家、パチンコ店の駐車場など、安全で屋根のついているあらゆる場所が避難先となりました。内陸部でもライフラインの途絶や不安を抱える人達が避難所へ避難しました。

避難所は、厳しい寒さの中、度重なる余震や津波への不安を抱えた多くの人々が身を寄せ合いました。



避難の状況

最大避難者数 [3/14] **320,885**人

避難所数 [3/15] **1,323**か所

避難所閉鎖日 平成23年**12月30**日

最大二次避難者数 約**3,000**人

(調整に県が関与した数。H23.4月から10月まで)

帰宅困難者や在宅避難者の発生。

そして、市町村外への避難の実施。

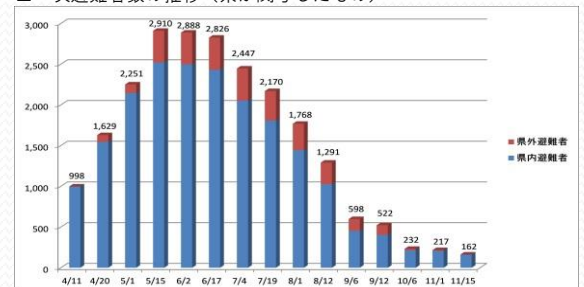
仙台駅付近など交通の要衝となる地域では帰宅困難者が発生。当初、避難所に避難しなかった人も、長期間にわたるライフラインの途絶や食料調達の困難さから、支援を必要としながらも自宅での避難生活を余儀なくされる、いわゆる「在宅避難者」となりました。

また、住まいを失った多くの避難者が避難所での長期的な生活を余儀なくされる状況となり、二次避難(市町村外への避難)が実施されました。応急仮設住宅への入居が始まると市町村外への避難は収束に向かい、県が関与する二次避難は10月末に解消されました。しかし、避難生活が長期にわたったことから、居住市町村への帰宅を断念する避難者もいました。

このほかにも、親戚、知人等を頼り自主的に市町村外へ避難する被災者もいましたが、正確な人数は把握できませんでした。



■ 二次避難者数の推移 (県が関与したもの)



※11月15日以降は、石巻市が通勤通学用として仙台市に設置した避難所が平成24年3月まで継続された。